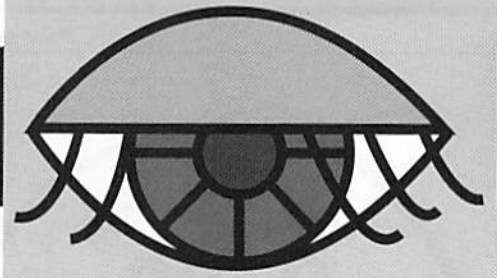


# FAME Report



京都ノミキ見トピックス

## 開演!!

# お笑い好き京都人のための 「吉本はまぐり御門劇場」!!

4/8、KBSホールにて幕を開けた京都花月以来の定期公演。ベテランから若手芸人まで回変わりの舞台が月イチで楽しめる近場の劇場が始まった。

取材・文/端井由紀子  
写真/内藤貞保



チケットは大丸、高島屋、KBS京都の各プレイガイドで発売中。第一部¥2,000、第二部¥1,500である。



今いくよ・くるよ



里見まさこ・亀山房代



水玉れっぷう隊



しましまんず



びのつきよ

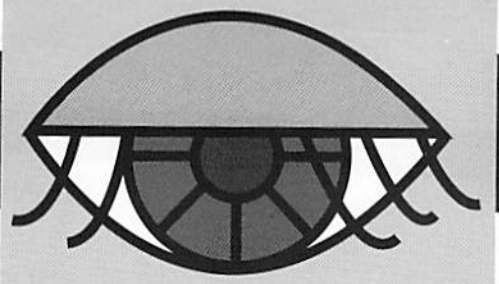
玄関横では2部の若手を待つて女子高生がもう群れている。「奥さん、こごや。」「運れてすんません。」開演のアナウンスに連れと話すおはほんの大声が混じり、そんなおはほんに連れてこられた子供が動き回る。今日の一番手、今いくよくるよの出の拍手に紛れて、ばたばたと席に座ったおはほんは、肩にバッグのシヨルターをひっかけたままで、この日最初の笑いを逃さずにとらえていた。笑いにきた客と笑わせにきた芸人が共有する独特の空気。舞台はええなあとやはり思わせる。

「KBS京都さんとは長いおつきあいですが、今何かと大変なKBS京都復興のためにウチも何か力になれへんか、というのがきっかけでしたね。」とのこと。だがそこは天下のお笑い帝王、吉本のこと「やるからには京都で人が集まる定期公演に育てたい。」という意欲は当然。そんな意欲を反映してか、会場には吉本の重役、木村常務の姿もしっかり。京都花月以来の定期公演に対する吉本の意気込みを感じさせた。当日はベテラン芸人による絶妙なネタ運びとしゃべくりの一部に続き、二部では若手が2丁目の客とはまた違った京都の女子高生相手に好演。爆笑をとっていた。この劇場はKBS京都のテレビ、ラジオでも放送されるが、やはりメディアよりライブ。行かないで「おもろい」は感じられない。

今いくよくるよがくる、中田カウス・ポタンが来る、2丁目劇場の若手芸人が来る。KBSホールにて、月イチながら芸人の舞台が見られる「吉本はまぐり御門劇場」が始まったのは、京都のお笑い好きには実に嬉しいことだ。ベテラン・中堅どころが出演する一部の「はまぐり花月寄席」と若手が出演する二部の「2丁目おでかけWatchachachalive」で構成されるこの劇場は、千日前のNGKや梅田花月、2丁目劇場に行かなければ見られない吉本の芸人が京都に居ながら月変わりで楽しめる定期公演である。定期公演といえは京都花月以来。この時期この劇場実現のきっかけを、企画にあたったという吉本のプロデューサー菅氏にお聞き

6/10  
吉本はまぐり御門劇場出演者  
1部 どんきほーて、非常階段、月亭八方、中田カウスポタン、オール阪神巨人、浮世亭リングサイド  
2部 2丁目ワチャチャ軍団  
※出演者はまたにつき、変更の場合があります。

# FAME Report



京都ノビキ見トピックス

## 阪神大震災復興支援 フリーコンサート。

京都に住む、私たちにできることは？何かをしなければと思う者たちが集まった一日。

取材・文／木村紀子  
写真／内藤貞保



あなたは、あの日の衝撃を、恐怖を、既に忘れ始めてはいないだろうか？5千人という、あまりにも尊い犠牲を出した阪神大震災から我々が学んだことといえば、関西に地震は起こらないとタカをくくっていた楽観主義的神話の崩壊と、非常時における政府・行政の手際の悪さと怠慢さであった。

「頑張っ」は誰にでも言える。しかしそこから一歩踏み出し、どんな小さなアクションでもいい、自ら起こすことを辞さなければ、希望の光はもつともつと、大きなものとなるはずである。

そう願う有志たちの思いのたけを集めたイベントが、去る4月16日の日曜日、京都三条大橋河川敷西側広場で行なわれた。題して「阪神大震災復興支援フリーコンサート」。主催となったのはE・B・F・C実行委員会の増田剛氏である。氏は、今回のコンサートに日本のみならず国境を越えた海外のミュージシャンにも話をもちかけ、協力を得ることに成功した。この日の出演者は、D.R.T. oshi & LOVE J、友枝良平、ダンシング義隆&誰がカバヤねん、ロックン・ロールショー、古川豪、

Zaharr A. Hayatt i、マイク・ウエルヘルム&キョンほか。そしてトリには、亡きジャニス・ジョプリンが率いていたビッグブラザー&ザ・ホールデイング・カンパニーが登場した。当日は残念ながらあいまいな天気が一日中続き、朝から雨が降ったりやんだりを繰り返していた。にも関わらず、ボランティアの学生たちの呼び掛けも効果あって、開始して1時間ほど経った頃から、ひとの数は徐々に増え始める。観衆の中には外国人も多く見られ、会場入口に設置された(国際電話掛け放題)のところには、たぶん故郷に声が届いたのだろう、嬉しそうに語り合う外国人グループの姿が見られた。途中、雨が少しきつくなっても、傘を開かず黙ってステージを見つめ続ける人の姿が印象的だった。

この日、人々から集められた支援金は、すべて「震災復興支援、京都NPO連絡会」を通じて復興支援の活動に使われる。これを終わりではなく、始まりにしたいという思いはきっと誰の心にもあるであろう、コンサートだった。

